

6 漢方病因学

はじめに

漢方医学における健康の概念は、気・血・津液や臓腑・経絡などがバランスの取れた状態で機能していることである。このバランスが生理的な状態を超えて崩れたときに、人は病気になる。バランスを崩す原因を「病因」と呼んでいる。漢方医学における病因の概念は、西洋医学のそれとはまったく異なっており、自然界の諸現象や、生体内の諸要素のさまざまな働きによって現れる生理的な現象と密接に結び付いた形で認識されている。

このような病因に関する記載は、すでに『黄帝内経』の中に見られ、さらに隋代に編纂された病理症候学書『諸病源候論』にも、症候とその原因についての事項が細かく記載されている。その後も、病因に関する記載は多くあるが、宋代に陳言によって、外因・内因・不内外因の三因分類が創案され、この分類が標準的なものとして広く用いられるようになり、現在にいたっている。

また近年では、これら三因のほかに、血や津液など生理的な物質がその代謝の過程において何らかの理由により原型を失い、病的な物質（病理産物）に変化したものも新たな疾病の原因となりうるがゆえに、病因の中に入れていく。以下に、三因および病因としての病理産物について、基本的な事項を概説する。

三因(外因・内因・不内外因)

三因とは、宋代に陳言が『三因極一病証方論』の中

で提唱した病因分類である。外因とは、外部から身体を侵襲する邪のことであり、内因とは感情の失調を意味し、不内外因とは上記以外のもので、一般的に飲食の不摂生・過度の労働や疲労・節度のないセックス・外傷・寄生虫の存在などをいう。これらの概念は、現在でも一般に用いられている。

1 外因

外因とは外部から身体を侵襲する邪のことで、風・寒・暑・湿・燥・火の六淫をいう。これらは自然界にもともと存在するいわゆる六気であり、何らかの理由により人体に影響を及ぼし、疾病を発生した場合に六淫と呼ばれる。それぞれの邪はその邪に特有の特徴を有しており、病状や症候もそれに関連して出現する。外から侵襲するので、外邪とも呼ばれる。

①風邪

風邪は、自然界の風の性質に似て、急に疾病を発症せしめ、人体の上部や肌表を犯しやすい。すなわち、頭痛・鼻汁・咽痛など頭部の症状や、悪風・発熱・発汗など体表の症状が現れる。また、風はよくめぐり、しばしば変化する性質があり、遊走性の疼痛や痒みなどを引き起こす。さらに、風は百病の長といわれ、寒・湿・燥・熱などのその他の邪は風に依拠して身体を侵襲する。すなわち、外邪が病を引き起こすときの先導となることが多い。

②寒邪

寒邪は、自然界の寒の性質に似て、陽気を傷ること

によって身体に寒冷性の症候を出現させる。また、気や血を凝滞させることによって疼痛を生じ、さらに収引の性質により、腠理を閉じて発汗を抑制したり、経脈を阻滞して筋を拘縮させる。

③暑邪

暑邪は夏の邪気で炎熱の性質が強く、その侵襲を受けると、高熱・口渇・多汗などの症候が現れる。熱性が強いので津液を消耗しやすく、また心神を擾動して心煩や意識障害を来したり、大量の発汗と同時に気を失わせ気虚を来したりする。多くの場合湿を夾むので、湿邪による症状を併発する。

④湿邪

湿邪は、自然界の多湿の気候や水の停滞・貯留の現象に似て、性質が粘膩で停滞性であり、除去しがたい。すなわち、湿邪が侵襲すると、身体がだるい・重いなどの症候が現れ、疾病の経過が長く、経絡や関節を侵すと関節が痛んだり動かしくくなる。また、浮腫や発疹（湿疹や蕁麻疹などの一部）など、水湿の貯留や停滞の症状がみられる。さらに、湿邪は脾胃を侵しやすく、特に脾は燥を好み湿を悪む性質があるため、湿邪に侵されると運化が障害されて種々の消化器症状（食欲不振・腹満・軟便など）が現れるほか、水腫・腹水などを来すこともある。湿邪は下注するため、症状が下部に現れる傾向がある。

⑤燥邪

燥邪は、自然界の乾燥の性質に似て、乾燥した季節や環境において発症しやすく、症状も乾燥症状が主体である。臓腑のうちでは特に肺を侵しやすく、宣発降機能を障害して乾咳・喀痰（量は少なく粘稠）、喘息・胸痛などの症候を発現させる。また、皮膚や粘膜の乾燥（たとえば、咽頭の乾燥感や痒み・疼痛など）がみられる。

⑥火邪（熱邪）

火邪は熱邪ともいい、その特徴は、自然界の熱に似て、高熱・悪熱・煩渴など全身あるいは局所に熱性の症候を出現させる。排泄物は粘稠で排出時に灼熱感を伴う。津液を消耗して口渇・尿量減少・大便秘結を来したり、正気を損傷して気の衰脱を引き起こす。また、肝の陰液を耗傷して風を生ぜしめ（熱極生風）て熱性痙攣を引き起こしたり、脈絡を灼傷して出血させたり（迫血妄行）する。さらに、炎上の性質により、心神を擾動して不眠・狂躁など意識や精神の異常を引き起こす。なお、火熱の邪が血分に入り、血肉を腐蝕させると膿を生じる。

外邪は単独で侵襲することもあるが、二種あるいは三種の邪が合して疾病を引き起こすことも多い。たとえば、「傷寒」は風寒の邪が、「痹証」（関節リウマチなど）は風寒湿の邪が、それぞれ侵襲したものである。また、湿邪と熱邪が合して侵入するものを湿熱というが、湿

